急成長する東南アジア経済を背景に世界の大企業が続々と拠点を設置する
製造未来都市国家シンガポール

中産階級が牽引するダイナミックな経済成長を背景に日本企業の東南アジアへの進出が加速する中、アジアに設置されたグローバル企業の地域統括会社の46%がシンガポールに設置*されています。

シンガポールが製造未来都市国家として急成長している東南アジアの拠点に選ばれる理由は：

世界トップクラスのインフラと多様な人材プール

- 「ザ・エコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)世界ビジネス環境ランキング」(2023)15年連続世界1位
- 「INSEAD国際人材競争力インデックス」(2023)世界2位、アジア太平洋1位
- 「IMD世界競争力ランキング」(2024)世界1位

インダストリー4.0時代に求められるより柔軟で強靭なサプライチェーン構築に対する可能性

- 「IMD持続可能な貿易指数ランキング」(2024)総合世界4位、「経済」項目世界2位
- 「世界銀行物流パフォーマンスインデックス (LPI)」(2024)世界1位
- 「世界銀行政治的安定度指数」(2023)世界4位、アジア1位

世界的なデジタル化の加速と東南アジア経済の急成長によって、シンガポールはイノベーション拠点の最有力候補地に

- 「WIPOグローバル・イノベーション・インデックス(GII)」(2024)世界4位
- 「IMD世界デジタル競争力ランキング」(2024)世界1位
- 「グローバル・スタートアップ・エコシステム・レポート(GSER)(2024) 世界7位、アジア1位

主要な世界市場への迅速かつ経済効果の高いアクセス

- 7時間のフライト圏内に世界人口の半数以上に相当するアジア太平洋地域の38億人にアクセス可能
- 100社以上の航空会社が世界100カ国以上に就航
- 貨物取扱能力を増強する第2空港、ロジスティクスパークは2030年に着工予定

環境関連においても社会課題解決の拠点となるべく「シンガポール・グリーンプラン2030」環境行動計画を策定し、グリーンファイナンスなど、新たなビジネス機会の創出も目指しています。

*出展：Top Mnc Companies in Singapore | The Grid

東南アジアのハブ

出典：日経ビジネス版 ASEAN進出ガイド(第三回)

主なシンガポール進出企業例

鹿島建設株式会社、住友化学株式会社、ソニー株式会社、中外製薬株式会社、株式会社日立製作所、HOYA株式会社、他 (五十音順)

ビンタン・バタム・シンガポール経済圏の相乗効果

シンガポールにHQ、先進製造拠点、R&Dセンターを置くことで、広範なFTAネットワーク、コネクティビティ、人材、資金調達、IP保護などのメリットが得られます。更に、国境付近のバタム・ビンタン島に製造拠点を設置することで、土地価格、人件費、光熱費などの費用が比較的安価に抑えることができ、経済圏の相乗効果を得ることが可能です。
企業例：株式会社シマノ、パナソニック株式会社、横河電機株式会社、他 (五十音順)

シンガポール経済開発庁(EDB)はエンタープライズ・シンガポールおよび民間企業パートナーと、東南アジア製造業アライアンス(SMA)の協定を結んでいます。一定の基準を満たした企業は、金融資本、人材、知財など、シンガポールのエコシステム、人材、ネットワークが活用できます。また、2021年から企業ベンチャーの創出を支援する約30億円のプログラム「CVL」を展開し、24年からは約35億円の追加助成金を支給します。
詳細はこちら。